

天 馳 星

人間のエネルギーは「死」によって宇宙空間に飛び散り、空間の世界へ突入したエネルギーが行き着くところは宇宙の極の世界なのです。

そこは、時間も、空間も存在しない世界です。そのため天馳星世界には、過去もなければ未来もない。存在するのは、現在だけなのです。

時間も空間も全くないのですから、幅もなければ、奥行きもない、まして空間の広がりをもつわけでもなく一点に集まるものでもないのです。

その瞬間における力量は、時間と距離をのぞけば、天将星世界といえども勝る事は至難の業なのです。

それこそ、超高速で、吹き荒れる暴風の瞬間におけるエネルギーのようなものであると言えるでしょう。

(「あの世」の星である天馳星は一番エネルギーが弱いように見えますが、じつは非常にエネルギーギッシュなのです。これは天将星の持つもっとも強いエネルギーとは違うのです。天将星は持続性のある強さですが、天馳星は瞬間のつよさなのです。)

その瞬間が一つ一つ別個のものになっていて、けっして時間的連絡があり得ない世界なのです。

天馳星世界は、それだけに、じつに多忙な世界であり、休息の時間がないのです。それはまた同時に幾種類もの仕事をしたり、役割を与えられても、みごとに消化して行く力となります。

それだけに、これほど、与えられた役目に忠実な世界はありません。(天馳星はたいへんに多忙な世界で気ぜわしいのですが、精神は常に平静なのです。黙々としてその場その場の役目を果たしていくので、それがいつのまにか、見事な蓄積となって財を成したり、一業、一芸に秀でるようになるのです。)

また常に感情と行動が一体であるため、そのスピードは他の人達より早く、歩調を合わせることは出来ません。加えて勤性は相当に強いのですが、これは一種の「ひらめき」です

そしてまた単独行動に走る事になり、孤独な人生を休むことなく、ひた走らなければならない世界なのです

天 馳 星 中 殺

天馳星は天将星世界と同じように大きなエネルギーを天性にもっていますので、エネルギー消耗が少な過ぎれば、肉体は破壊され病弱の人となりやすい世界です。

そのため、良く働き、頑張る星なのですが、これが中殺に遭うと、なにかと人に利用されやすくなるのです。つまり努力が徒労に終わる事になるのです。

天馳中殺の人は、些細な事から偉大なものを創り上げて行くようになります。

算命学では、このことを「無の重なりから無限の有が生まれる」と解説していますが、この星の中殺者は、立身伝中の人物の様な成功も夢ではなくなります。

(たとえばアイディアをひねり出し、そのパテントをとり、やがては巨額の富を得て、大財閥をつくるといった人生だって夢ではないのです。)

天馳中殺の人にはもう一つの大きな特徴があります。いわゆる「想念の拡がり」といって自分の考えた事が、無限の拡がりを見せ、宇宙を超越していくような傾向をもっているのです。

しかし天馳中殺だからといって誰でもこの特質を利用し活用出来るとは限りません。

人によっては折角このような素質をもちながら、無用の長物としている場合が少なくないのです。会社に勤めている人ならば、いわゆる企画力で認められ、職場では確固たる地位を築くようになるのでしょう。

その意味では、企画はもちろんのこと宣伝や弘報、販売促進……といった職種が最適です。

しかし、体力がなければ勤まらない仕事には不向きなはずで、(ロケットや人口衛星…といった仕事に携わる学者には、天馳中殺を持っているケースが多いといえます。ご家庭にいらっしゃる女性、それも主婦でこの星が中殺の人は、家計の切り盛りは上手なはずで、少ない家計費をフルに活用して生活に潤いをもたらしてこられるはずで)ただ、理論家ですから自我を主張して、強い反発をかわないように注意してください。